

第150回エイズ動向委員会
委員長コメント

《平成29年第3・第4四半期》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成29年6月26日～平成29年9月24日（以下A、前年同時期を α とする）
平成29年9月25日～平成29年12月31日（以下B、前年同時期を β とする）の約半年
2. 新規HIV感染者報告数は (A) 245件及び (B) 241件 ((α)261件及び(β)253件)
3. 新規AIDS患者報告数は (A) 110件及び (B) 122件 ((α)113件及び(β)110件)
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は (A) 355件及び (B) 363件

【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが (A) 174件及び (B) 178件
(新規HIV感染者報告数の (A) 約71%及び (B) 約74%)
 - 異性間性的接触によるものが (A) 35件及び (B) 31件
(新規HIV感染者報告数の (A) 約14%及び (B) 約13%)
そのうち (A) は男性30件、女性5件 (B) は男性25件、女性6件
 - 静注薬物によるものは(A) 2件及び(B) 1件
 - 母子感染によるものは(A) 2件及び(B) 1件
 - 年齢別では、20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが (A) 60件及び (B) 70件
(新規AIDS患者報告数の (A) 約55%及び (B) 約57%)
 - 異性間性的接触によるものが (A) 35件及び (B) 31件
(新規AIDS患者報告数の (A) 約32%及び (B) 約25%)
そのうち (A) は男性27件、女性8件 (B) は男性22件、女性9件
 - 静注薬物によるものは (A) 、(B) 共に0件
 - 母子感染によるものは (A) 、(B) 共に0件
 - 年齢別では、30～40代が多い。

【検査・相談件数の概況（平成29年7月～12月）】

1. 保健所におけるHIV抗体検査件数は (A) 22,906件及び (B) 25,511件
(前年同時期確定値(α)21,045件及び(β)24,249件)
自治体を実施する保健所以外の検査件数は (A) 7,779件及び (B) 8,617件
(前年同時期確定値(α)6,981件及び(β)7,968件)
2. 保健所等における相談件数は (A) 31,447件及び (B) 33,069件
(前年同時期確定値(α)29,263件及び(β)31,123件)

【献血の概況（平成29年1月～12月）】

1. 献血件数（速報値）は、4,775,648件（前年同時期4,841,601件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（速報値）は43件（前年同時期48件）
10万件当たりの陽性件数（速報値）は、0.900件（前年同時期0.991件）

《まとめ》

1. 平成29年の新規HIV感染者報告数を前年同時期と比較すると、第3、第4四半期共に前年同時期より減少していた。新規AIDS患者報告数については、第3は前年同時期より減少し、第4四半期共に前年同時期より増加していた。
2. これまでと同様、平成29年下半期の新規HIV感染者は20～40代、新規AIDS患者は30～40代で報告数が多かった。平成29年度第3及び第4四半期に、母子感染が報告された。一方で、70歳以上の新規HIV感染者及び新規エイズ患者も報告されており、幅広い年齢層の報告がある。
3. 平成29年第3四半期及び第4四半期の保健所等におけるHIV抗体検査件数及び相談件数は前年同時期に比して増加していた。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名HIV抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

《平成29年 年間報告（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成28年12月26日～平成29年12月31日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は992件で過去11位
3. 新規AIDS患者報告数は415件で過去11位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,407件で過去11位

【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが724件（全HIV感染者報告数の約73%）
 - 異性間性的接触によるものが150件（全HIV感染者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは3件
 - 母子感染によるものは3件
 - 年齢別では、特に20～40代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが230件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが103件（全AIDS患者報告数の約25%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは1件
 - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、50歳以上が約29%を占めている。

【検査・相談件数の概況（平成29年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は123,432件で過去11位
2. 保健所等における相談件数（確定値）は123,768件で過去20位

《まとめ》

1. 平成29年は速報値ではあるが、新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数は平成28年より減少した。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路は、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、個人においては早期治療に、社会においては感染の拡大防止に結びつくことから、重要となる。国民の皆様には、性感染症を含め、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用いただきたい。
3. 速報値ではあるが、3年ぶりに複数の母子感染の報告があった。母子感染の防止には、妊婦に対するHIV抗体検査の実施や抗ウイルス療法等が重要である。妊婦健診を確実に受診していただき、医師の指示に従っていただきたい。また、妊娠中にも、性感染症に罹るリスクがあることを知っていただいた上で、適切な予防行動を取っていただきたい。
4. 速報値ではあるが、献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年比で減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、HIV感染症が疑われる場合、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用いただきたい。
5. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。